

児童養護施設における 性的マイノリティ（LGBT）児童の対応に関する調査

～どの児童も生活しやすい児童養護施設へ～

一般社団法人レインボーフォスターケアは、2013年より「性的マイノリティと社会的養護」に関する勉強会・講演やロビーイングなどを行ってきました。そうした活動の中で、児童養護施設職員から「施設にいる児童が性的マイノリティと思われるが、どう対応すればよいか」と相談を受けるようになりました。

そこで、社会的養護において「育てる性的マイノリティ」だけでなく「育てられる性的マイノリティ」について実態を調査し、対応の好事例を施設職員に提供する必要性を感じ、2016年、調査委員会を結成し、本調査を実施しました。

「調査委員会メンバー」

岩本健良・金沢大学人文学類准教授、白井千晶・静岡大学人文社会科学部教授、渡辺大輔・埼玉大学教育機構基盤教育研究センター准教授、一般社団法人レインボーフォスターケア（3名・1団体）

調査の目的 ～「毎日が修学旅行」～

性的マイノリティ児童は、修学旅行などの集団行動の際に大きな困難を抱えており、文部科学省でもその対応について通達を出し、2016年には教員向けに周知資料を出しているところです。

（参考：http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/04/_icsFiles/afieldfile/2016/04/01/1369211_01.pdf）
ところが、児童養護施設で過ごす児童は学校のみならず入浴や就寝などの生活自体も集団生活となることが多く、その中で過ごす性的マイノリティ児童は大きな困難を抱えていると推察されます。

「毎日が修学旅行」に近い生活をしている性的マイノリティ児童もいるのではないのでしょうか。そのような現状を調査し、児童養護施設としてどのような対応をとっているかを聞き取り、全国の職員に好事例・好対応を伝え、処遇の改善に活かしていくことをその目的とし、本調査は実施されました。

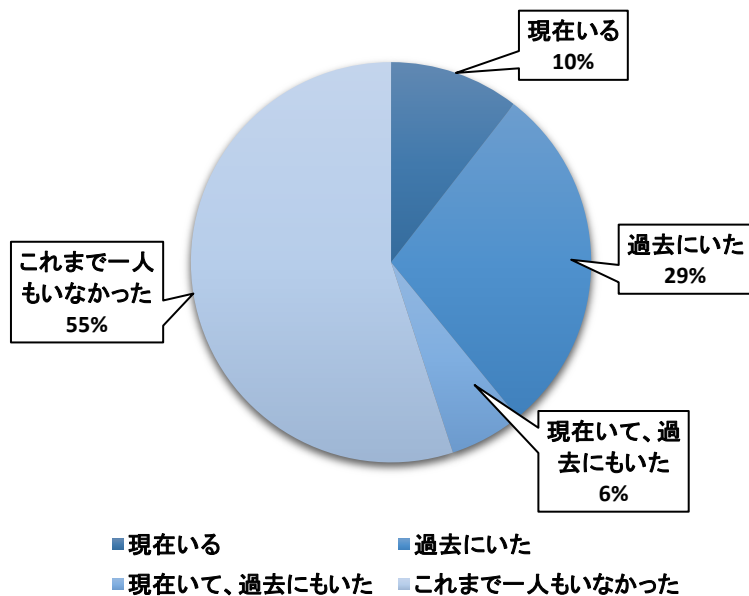
調査の方法 ～220施設の回答～

2016年11月、社会福祉法人全国児童養護施設協議会HPに掲載されている「全国児童養護施設一覧」<http://www.zenyokyo.gr.jp/list/list.htm>に基づき、601の児童養護施設に調査票を郵送しました。その結果、220施設より回答を得ることができました。

調査報告書は「レインボーフォスターケア」HPより

<https://rainbowfostercare.jimdo.com/>

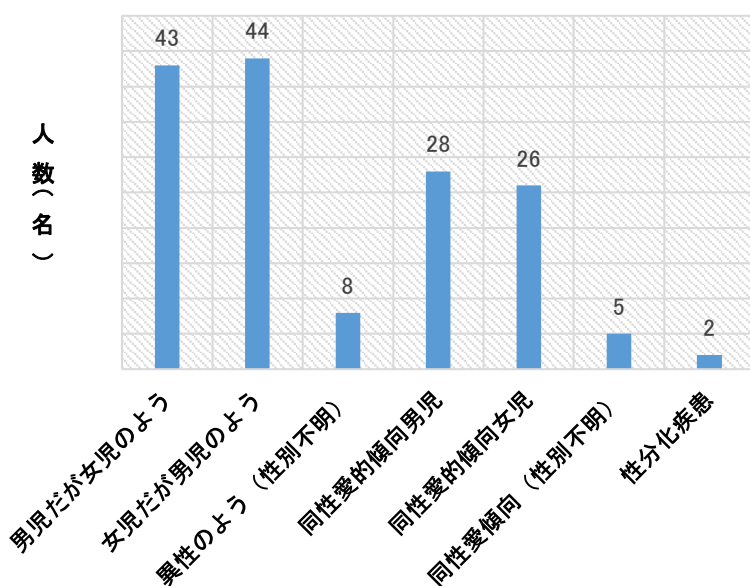
性的マイノリティと思われる児童の有無



220 施設中、性的マイノリティ児童と思われる児童について「現在いる」10%(23 施設)、「過去にいた」29%(63 施設)、「現在いて、過去にもいた」6% (13 施設) との回答でした。半数近い施設 (**45%、99 施設**) で、現在いるか、過去にいたと、職員が把握しています。なお、複数いる (いた) 施設もあり、在籍のべ人数は、**144 名** (現在 : 40 名 過去 : 104 名) となっています。

※子ども時代に性的マイノリティの傾向があっても成長とともに性的マジョリティと自覚する場合や、その逆のケースもあります。本調査においては、児童が現在感じている生活上の不都合や悩みなどについての対応に焦点を当てることを目的とし、「現時点で、性的マジョリティと異なる傾向が見受けられる児童」についてお聞きし、「性自認・性的指向が“一般的”“典型的”な形とは違う『性的マイノリティの児童 (もしくはそうだと推察される児童)』はいましたか」という表現を用いて質問しました。

性的マイノリティと思われる児童の内訳



【異性のようなふるまい (服装、話し方、好み)】
 男児だが女児のようなふるまいの児童、MTF : 43 名
 女児だが男児のようなふるまいの児童、FTM : 44 名
 異性のようなふるまい、性別不明 : 8 名

【同性愛 (両性愛) 的傾向のある児童】
 男児…28 名、女児…26 名
 性別不明…5 名

【性分化疾患の児童】
 女児 : 2 名

男児と女児の人数は拮抗していました

※「男児」「女児」については、生物学的性に沿った表記としています。「性自認」「性表現」「性的指向」について明確に区別できるものではなく、「男児で女児のようなふるまいをして男児を好む」など、重複する場合があります。

性的マイノリティと思われる児童の例

【男児の例】

集団生活に関する事例が見られました

- ・男子で、着替えを見られる事・温泉等の集団入浴・プールを嫌がる。
- ・第二次性徴の体の変化(声変わり、ひげ、毛が濃くなる)に嫌悪感を抱くなどがある。その児童から「自分は昔女だったかもしれない」という言葉が出たこともある。
- ・男子が他の児童と入浴したがらない。担当職員(男)を意識し、無断外出等がある。
- ・女の子の遊びや女児用の衣服、女の子同士との遊びを好む傾向が強くなり、入浴の際も自分の裸を見られるのを恥ずかしがる発言があり、他の男児と一緒に入浴させることに配慮が必要かどうか困った。
- ・男子小学生高学年であり、同学年の男子のことが気になる旨の発言がある。

【女児の例】

服装に関する事例が見られました

- ・制服のスカート以外ははかなかった。卒園後、数年してから性同一性障害の診断を受け、身体的治療を受けた。戸籍の名前の変更は済んでいるが、性別変更は条件を満たしていないためしていない。
- ・高校生女児。「男になりたい」「男に生まれたかった」と言う。スカート・タイツ・ストッキングへの嫌悪。一人称が「オレ」。「女子が好き」という発言。
- ・小学生女子：スカートを嫌い、中学の制服はずいぶん抵抗しました。現在 20 代後半。本人もはっきり言いませんが、現在、女性と暮らしているようです。
- ・同性の先輩が好きと公言(相手には知られたくない)。スカートは嫌がる。

性的マイノリティと思われる児童への対応と結果

「現在いるか、過去にいた」と回答した 99 施設中、
対応したことがある：**69%(68 施設*)**、対応したことがない：30%(30 施設)、無回答：1%(1 施設) ※「対応したこととないことがある」1 施設を含む。

対応は？

- ・希望する服装(男物)の購入、制服(スカート)着用しなくてもいいよう学校と調整。
- ・ありのままのあなたでいいんだよ、と日ごろから伝えるようにした。
- ・セクシュアルマイノリティのボランティアサークルの人へ相談。
- ・個室の提供、服(下着含)を自分で購入させる。
- ・何気なく本を見せて話をしたことがある。

結果は？

- ・職員に対して、前より**オープン**に話をするようになった。
- ・職員が理解することで、対応に**ゆとり**を持てたと思われる。
- ・本人は**カミングアウト**によって周囲に否定されなかったことで気持ちが楽になったと話す。
- ・そうであっても良いことや**安心感**が本児の中に生まれた。
- ・当時は LGBT についての告白はなかったが、卒園後に職員に告白してくれた。本人の**ありのまま**を受け止めることで、相談できる関係ができていたと思われる。
- ・本人も受け入れられたようで**ほっとした表情**も見受けられ安心して生活できているようだった。
- ・職員間の連絡、施設と学校との**連携**が強まった。

性的マイノリティ児童に対して 2/3 の施設で職員が対応しており、また対応次第で、そうした児童にとって過ごしやすい環境を整えられることがわかりました。

寝室・入浴の環境、性的マイノリティ児童の対応で

苦勞していること・悩んでいること

- ・自己領域の確保・徹底が生活内における性教育実践の重要な1つと考えていますので、児童の居室への入室や入浴介助など職員側の配慮も大切にしています。その他、実習生やボランティアには入浴介助はもちろん排泄介助なども行わせていません。子どもの暮らしにおいては幼児についても寝具の柄なども変えるなどの**自己領域醸成の配慮**を行っています。
- ・施設内に性を考える委員会があるが、活動の主旨が浸透していない。異性の居室の出入り、入浴を個別か、同性で職員付き添いならOKかなど話し合われないまま、**職員一人一人の裁量で判断**してしまっている状況。

「児童と児童」「児童と職員」相互の領域の確保や境界について工夫する施設、悩んでいる施設が見られました。

- ・施設の都合上、個室がとれないので**プライバシーの配慮**が難しい。浴室についても大浴場で女子に関しては中高生も複数で入浴することになり、職員の把握できない空間となる。現在、性的マイノリティと思われる児童はいないが、仮にいたるとなると**男女で生活スペースを分けているので、受入が難しい**と感じる。
- ・個室の数や居住スペースを考慮すると定員に満たなくても入所希望者の年齢、性別によっては受入困難な場合がある。性的マイノリティ児童への対応については、このアンケートを機にLGBTについて研修し、施設として検討し、**準備しておくことが大切だ**と考える。
- ・現在いないが、将来的に可能性もあるので児童相談所、県含め、**話し合っていく必要がある**と思っている。またハード面での**施設整備の部分も考えていく必要性**はあると思っている。
- ・ユニット内の個室には鍵をつけていないため、気付かないうちに同性に性的指向を持つ児童との性的接触がいつ起きてもおかしくない現状であり、今まで性的マイノリティに対応した経験がなく、**早急な対策の検討**が必要と感じる。

性的マイノリティ児童の受入について不安を抱える施設、準備の必要性を感じている施設が見られました。

◆一般社団法人レインボーフォスターケアでは、この調査結果をもとに、さらに各施設のヒアリングを実施し、好事例や好対応についてさらに詳しく調査してまいります。

入浴環境や就寝環境、衣服の購入形態、性的マイノリティに関する職員研修、児童への性教育、などについては、「レインボーフォスターケア」HP掲載の報告書をご覧ください。

一般社団法人レインボーフォスターケア

HP <https://rainbowfostercare.jimdo.com/>

E-Mail rainbowfoster13@gmail.com